



## 10日間の市議会議員選挙

石狩医師会  
石狩湾耳鼻科

間 口 四 郎

耳鼻科の小医院を開業したのが2001年、以来医師会の会議、行事にはご無沙汰で、新年会は最初の年に出席しただけだった。家庭が一段落し、久しぶりに出た新年会が2018年1月。その時に立石会長が耳元で囁いたのです。「来年の市議会議員選挙に事務局の天野君を立候補させたいんだよ、これは古河先生とずっと前から相談していたことなんだ。天野君は医療行政に詳しいから、石狩市の医療のためにも議員になって欲しいんだよ」と。「そんな楽しい話があるなら、僕も仲間に入れてくださいよ。手伝わせてくださいよ」。その時の新年会に集まった医師が20人、一人30票集めれば600票。「当選できますよ」。酒も入っていたせいでしょう、久しぶりの新年会で選挙を話題にして陽気に挨拶をする自分がいました。でもその後、天野君は家族の反対もあり、立候補には難色を示していました。

「先生、立石会長から電話ですよ」。職員が電話を持ってやってきた。5月9日の午後だった。「なんとか説得に応じてくれたよ。ついては午後7時に集まってよ」。それは選挙告示日の3日前でした。

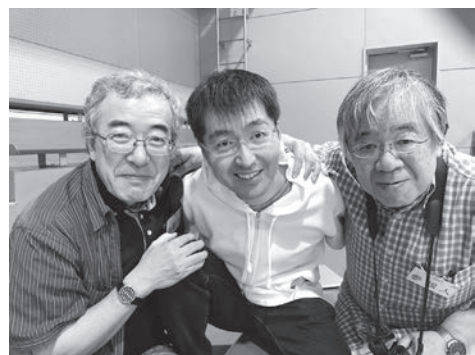
今まで行ったことがなかった医師会会議室。メンバーは5人。準備期間があまりに短いので、今回は見送るかどうかを議論。「ポスターの印刷が1週間かかるので、出来上がるのは投票日の前日になりそう」「今回はちょっと無理なんじゃないの」「選挙カーどうすんの」「選管の職員から『こんなギリギリにマジか?』と言われた」でも最終結論は「GO!」今回のチャンスを逃したら次回はない。手続きはたくさんあるけれども、12日の立候補届出に間に合うか頑張ってみよう、と。間に合ったら、13日に集まって改めて選挙対策を立てようと。

そして事務手続きは間に合いました。立石会長と天野君はほとんど徹夜状態。ポスターは選挙用の特殊な用紙をなんとかかき集めたようで、写真は急遽、動物専門の写真家が担当。それで、ポスターはなんとか間に合った。ポスター貼りは石狩病院の職員が遠く浜益までくまなく貼ってくれました。しかし私の描いていた選挙運動とは大きくイメージが異なっていました。選挙カーなし、めんこいウグイス嬢なし、お揃いの蛍光色のユニフォームなし。医師会の新年会に集まった先生方をお願いして、目指せ600票、立石会長の電話作戦。ドブ板選挙になりました。

握手の数が票の数、なんてうそぶいていたものの、戸別訪問はご法度、公職選挙法は、いろいろ制約があり厳しいのです。投票日までの毎日、メンバーが集まり、翌日にやることだけを相談。翌々日以降のことを考えると頭がパニック、収集がつかなくなるのです。

立石会長の戦略、選挙事務所を前半は立石クリニック、後半は私の石狩湾耳鼻科に移動する。事務所の看板なら表に天野君の名前を人目に出せると。18日夜8時、選挙活動も終わり、3人でささやか打ち上げ会。家に帰り、運だけはいい、保健所のガス室を間一髪で逃れたテンと名付けているうちの黒猫の腹を撫でながら、「おいテン、今回は頼むからこの俺に運をくれよ」とつぶやいていた。

投票も終わり、5月19日夜、開票所の花川南コミュニティセンターに赴く。開票作業は午後9時からというのに、気が急いで家では待ちきれず、手ぶれ補正のついた最高級の天体双眼鏡、実況中継用の連絡用iPadを持参し、8時には受付をして「参観人No 5」の名札をもらった。2階の座席から1階の開票風景が見て取れる。10時から30分おきに開票速報のプリントが張り出される。25人の立候補に定員は20人。立石会長と緊張でカラカラの喉をお茶で潤しながら状況を見守る。10時半の速報、41.86%の開票で500票！ 当選が見えてきた。知人で報道担当の能村ロックさんに撮ってもらったのが下の写真、嬉しそうですね。11時50分、最終発表は985票で10位当選。能村さん曰く「直前の立候補は作戦だったんでしょう?」「いやいや、策を弄する余裕なんてない、てんやわんや状態」。会長曰く「次々に問題が起こるのに、それがなんとか解決されていく楽しい一日一日だった。でも医師会が今までこんなにまとまったことはなかった。貴重な経験だった」。



左：著者 中央：天野君 右：立石会長